

2004 年 7 月の東北地方の天候

【 7 月の特徴 】

- ・ 12～13 日の平成 16 年 7 月新潟・福島豪雨
- ・ 高温

(1) 2004 年 7 月の概況

中旬は、梅雨前線が北陸から東北地方に停滞し、曇りや雨の日が続いた。特に、12～13 日の平成16年7月新潟・福島豪雨など各地で梅雨末期の集中豪雨となり、大きな被害が発生した。しかし、上・下旬は高気圧に覆われ概ね晴れて暑い日が続いたため、東北地方は高温となった。また、下旬の中頃は大気の状態が不安定となって各地で雷雨となり、落雷等により被害が発生した。

なお、東北北部、南部共に22日頃に梅雨明けしたと見られる。

月平均気温は東北日本海側でかなり高く、東北太平洋側で高い。月降水量は東北北部で平年並、東北南部で多い。月間日照時間は東北日本海側で平年並、東北太平洋側でかなり多い。

(2) 各旬の天候経過

上旬： 前半は、高気圧に覆われて概ね晴れの日が続いた。後半は、日本海に停滞した前線の影響で東北北部は日本海側を中心に曇りの所が多かったが、東北南部は引き続き高気圧に覆われて概ね晴れた。また、南から暖かい空気が流れ込んで真夏日となる所が多く、大気の状態が不安定となって各地で雷雨となった。

平均気温は東北北部で高く、東北南部でかなり高い。降水量は東北北部で少なく、東北南部で平年並。日照時間は東北北部で多く、東北南部でかなり多い。

中旬： 梅雨前線が北陸から東北地方に停滞し、曇りや雨の日が続いた。特に、梅雨前線の活動が活発化した12～13日は、平成16年7月新潟・福島豪雨により福島県で行方不明者や浸水など大きな被害が発生した。なお、13日の若松の日降水量は162.0mmと7月の極値を更新した。また、16～17日も秋田・山形県で大雨により浸水や山がけ崩れ等の被害が発生した。

平均気温は東北地方で平年並。降水量は東北地方でかなり多い。日照時間は東北日本海側でかなり少なく、東北太平洋側で少ない。

下旬： 21日は梅雨前線の影響で東北南部を中心に曇りや雨となったが、その後は太平洋高気圧に覆われ晴れて暑い日が続いた。中頃は大気の状態が不安定となって各地で雷雨となり、24日は福島・栃木県境の帝釈山山頂付近で落雷により1名死亡、26～27日は停電や列車の運休等があった。また、31日は酒田の日最高気温が36.9度と7月の極値を更新するなど厳しい暑さとなり、秋田県では熱中症により1名死亡した。

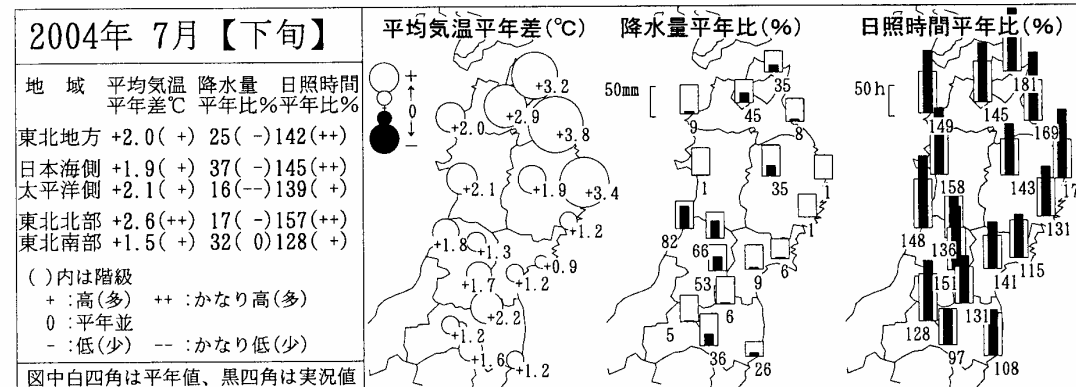
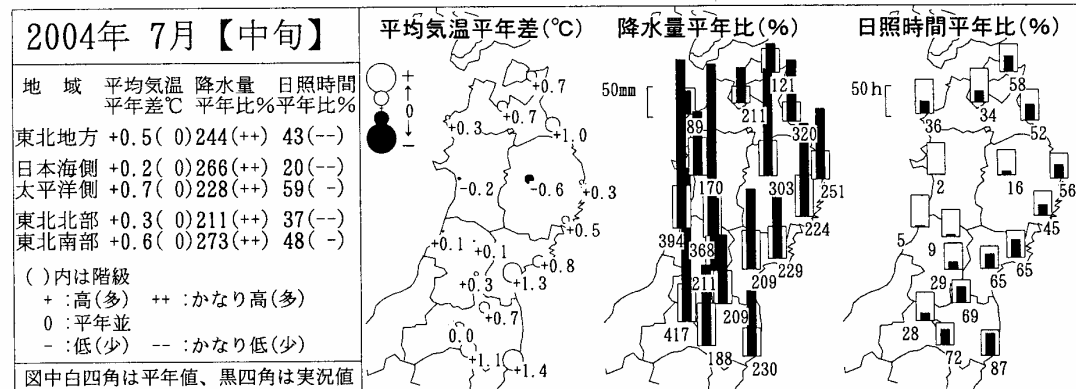
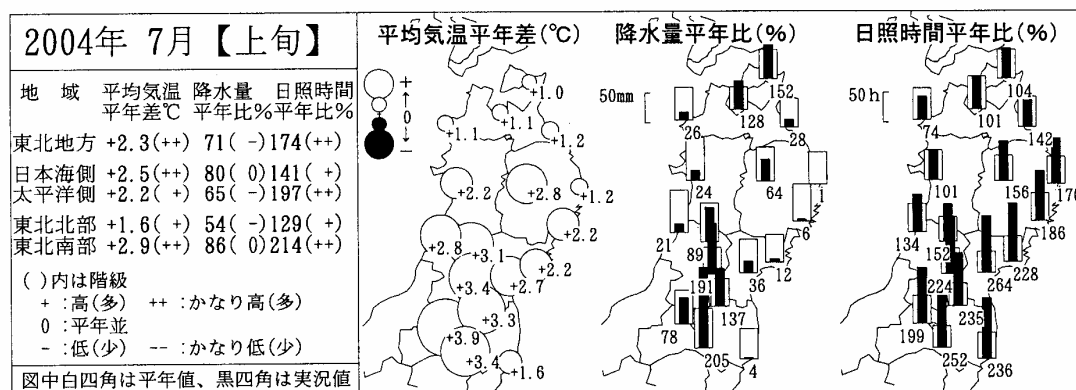
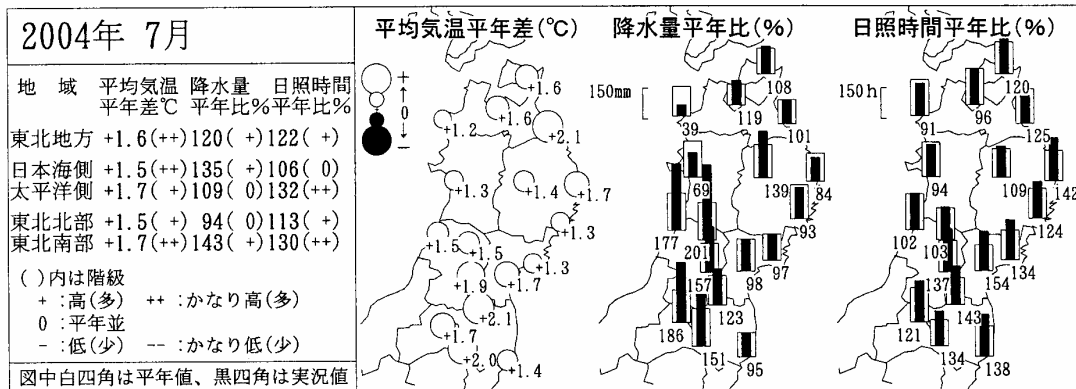
なお、29日に高温に関する東北地方気象情報第1号を発表した。

平均気温は東北北部でかなり高く、東北南部で高い。降水量は東北日本海側で少なく、東北太平洋側でかなり少ない。日照時間は東北北部でかなり多く、東北南部で多い。

注) 気候統計値は、東北地方にある 17 地点の气象台、測候所、特別地域気象観測所の観測値より求めています。細分地域については 2 ページ目脚注を参照して下さい。

平年値の統計期間は 1971-2000 年です。階級区分については、3 ページ目脚注を参照して下さい。

(3) 2004 年 7 月の月・旬平均 (合計) 値の平年差 (比)



注) 細分地域

東北日本海側: 青森県津軽、秋田県、山形県、福島県会津

東北太平洋側: 青森県下北・三八上北、岩手県、宮城県、福島県中通り・浜通り

東北北部: 青森県、秋田県、岩手県

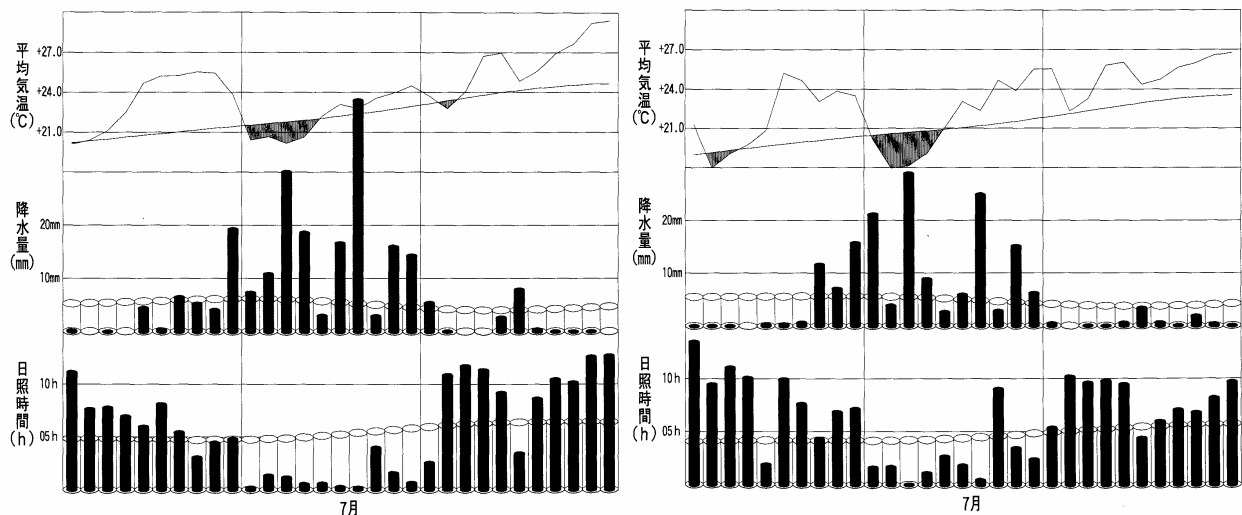
東北南部: 宮城県、山形県、福島県

(4) 2004 年 7 月の月気候表

地 点	月平均気温(平年差)			月降水量(平年比)			月間日照時間(平年比)		
			階級	mm	%	階級	h	%	階級
青 森	22.7	(+1.6)	+ *	122.5	(119)	+	171.0	(96)	0
深 浦	22.5	(+1.2)	+	57.0	(39)	-	161.8	(91)	0
む つ	21.2	(+1.6)	+	133.0	(108)	0	180.9	(120)	+
八 戸	22.3	(+2.1)	+ *	118.0	(101)	0	211.6	(125)	+
秋 田	24.1	(+1.3)	+	122.0	(69)	0	160.4	(94)	0
盛 岡	23.2	(+1.4)	+	230.5	(139)	+	156.8	(109)	+
大船渡	22.3	(+1.3)	+	158.5	(93)	0	185.4	(124)	+
宮 古	21.7	(+1.7)	+	117.5	(84)	0	212.3	(142)	+ *
仙 台	23.8	(+1.7)	+	156.0	(98)	0	196.2	(154)	+ *
石 巻	22.6	(+1.3)	+	127.0	(97)	0	198.2	(134)	+ *
山 形	25.1	(+1.9)	+ *	226.5	(157)	+	213.6	(137)	+ *
新 庄	23.8	(+1.5)	+	373.0	(201)	+ *	159.4	(103)	0
酒 田	24.7	(+1.5)	+	330.0	(177)	+ *	182.8	(102)	0
福 島	25.6	(+2.1)	+ *	178.0	(123)	0	191.4	(143)	+ *
若 松	25.1	(+1.7)	+ *	297.5	(186)	+ *	203.8	(121)	+
白 河	24.0	(+2.0)	+ *	283.0	(151)	+	173.1	(134)	+
小名浜	23.1	(+1.4)	+	115.0	(95)	0	210.7	(138)	+ *

観測値欄の記号は、×：欠測)：欠測日を含む ：現象なし ---：観測をしていない
階級は +：高い(多い) 0：平年並 -：低い(少ない) *は「かなり」を表す

(5) 2004 年 7 月の日別経過図



東北日本海側の日別経過図

東北太平洋側の日別経過図

気象官署の日別観測値と日別平年値の地域平均(気温：実線と点線、降水量・日照時間：黒い円柱と白抜き円柱)

注) 階級は「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3階級とし、それぞれの階級幅は、1971～2000年の30年間に於いて出現した値を等確率(33.3%)に区分しています。また、低い(少ない)方または高い(多い)方から出現率10%の範囲を、それぞれ「かなり低い(少ない)」、「かなり高い(多い)」と表し、補足的に用います。本資料の本文にある階級の表現も、「かなり低い(少ない)」、「かなり高い(多い)」に該当する場合はそのように記述し、細分地域により階級表現が異なる場合は地域を細分して記述しています。

(6) 2004 年 7 月の極値・順位の更新
(月平均気温、月降水量、月間日照時間の 3 位まで。)

月平均気温 高い方からの極値・順位更新

順位	地点名	気温 ()	これまでの最高 () (起年)	統計開始年	平年値 ()
3 位	新 庄	23.8	24.6 (1994 年)	1986 年	22.3

月降水量 多い方からの極値・順位更新

順位	地点名	降水量 (mm)	これまでの最大 (mm) (起年)	統計開始年	平年値 (mm)
2 位	新 庄	373.0	423.0 (1991 年)	1986 年	185.6

(7) 参考資料

	梅 雨 入 り			梅 雨 明 け		
地方	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
沖縄	5月5日頃	5月8日頃	5月15日頃	6月23日頃	6月23日頃	6月20日頃
奄美	5月13日頃	5月10日頃	5月13日頃	6月24日頃	6月28日頃	6月27日頃
九州南部	5月29日頃	5月29日頃	6月 9日頃	7月11日頃	7月13日頃	7月22日頃
九州北部	5月29日頃	6月5日頃	6月 9日頃	7月11日頃	7月18日頃	7月31日頃
四国	5月29日頃	6月4日頃	6月10日頃	7月11日頃	7月17日頃	7月31日頃
中国	5月29日頃	6月6日頃	6月10日頃	7月11日頃	7月20日頃	7月31日頃
近畿	6月6日頃	6月6日頃	6月10日頃	7月13日頃	7月19日頃	8月 1日頃
東海	6月6日頃	6月8日頃	6月10日頃	7月13日頃	7月20日頃	7月31日頃
関東甲信	6月6日頃	6月8日頃	6月10日頃	7月13日頃	7月20日頃	8月 2日頃
北陸	6月7日頃	6月10日頃	6月12日頃	7月22日頃	7月22日頃	8月 1日頃
東北南部	6月7日頃	6月10日頃	6月12日頃	7月22日頃	7月23日頃	特定せず
東北北部	6月7日頃	6月12日頃	6月12日頃	7月22日頃	7月27日頃	特定せず

梅雨は季節現象であり、その入り明けは、平均的に 5 日間程度の「移り変わり」の時期があります。

1) 平年の時期は 1971 年～2000 年、昨年の時期は事後検討結果の月日。

2) 遷移期間を含んでいるため単純に平年と比較できない。やむを得ず使う場合は「遷移期間の概ね中日で比較して 日程度早い」とする。

解説用階級区分値

		かなり早い	平年より早い	平年並	平年より遅い	かなり遅い
梅雨入り	東北南部	～6月 3日	～6月 7日	～	6月12日～	6月19日～
	東北北部	～6月 4日	～6月 9日	～	6月14日～	6月22日～
梅雨明け	東北南部	～7月14日	～7月20日	～	7月27日～	7月31日～
	東北北部	～7月14日	～7月22日	～	7月31日～	8月 8日～

なお、本年の梅雨入り・梅雨明けについては、当日までの天候経過及び数日から一週間程度の天候の予想に基づいて速報的に発表した値です。後日、それまでの天候経過を考慮して梅雨入り・梅雨明けの時期を事後検討し、確定して発表しています。